

年 頭 所 感

年 頭 所 感



福島県医師会会長

石 塚 尋 朗

2025年の年頭にあたり皆様のご幸福を念じ、あわせてご繁栄をお祈り申し上げます。

そして本年も福島県医師会が県民の健康と幸福な長寿に寄与することができますようにお祈りいたします。

昨年は、元日の能登半島大地震に始まり自然災害が多発、全国的な猛暑のなかで熱中症の救急搬送が相次ぐ事態となりました。この傾向は地球温暖化の加速とともに年々顕著になっており、医療現場が過酷な自然環境とも闘わなければならない事態となっております。さらに国内外を舞台とした詐欺や凶悪犯罪が多発し世相を暗くしております。SNSが様々な面で社会に大きな影響を与えていることを認めざるを得ません。諸刃の剣という言葉がありますが、生活の中に浸透しているこれらのツールが正にそれだと思います。大きな利益をもたらす半面、非常に危険なものにもなりうるのです。不適切な使用を規制するための法整備がテクノロジーの進歩に追いついていないことが問題となっています。

医療現場の危機に対応する

テクノロジーの進歩に伴い、医療現場に新たな危機が訪れています。ランサムウェアによるサイバー攻撃が国内外の様々な組織で確認されており、医療現場にも被害が及び、サイバー犯罪への対応を余儀なくされております。早急に医療現場の危機管理体制を整えることが不可欠です。そのために昨年開催されました医療安全推進・サイバーセキュリティー研修会を今年も開催いたします。可能な限り多くの医療関係者に危機感と予防・対策の知識を共有していただきたいと思います。

医療DXのビジョンを共有する

テクノロジーの進歩は同時に将来の医療に劇的な変化をもたらします。現在事務局では業務の効率化を図り会員の福利向上のために、DXの最初のプロセスであるDigitizationを進めておりますが、さらに運用開始10年目に入った福島県医療福祉情報ネットワーク（キビタン健康ネット）の利活用を推し進める

ことで、地域医療の質を向上させ、さらに「第8次福島県医療計画」の「地域医療構想」の実現に貢献し、キビタン健康ネットを利用される県民の皆さんの福利につなげてまいります。

さて昨年6月21日の閣議決定で「全国医療情報プラットフォームの構築」「電子カルテの導入や電子カルテ情報の標準化」、「診療報酬改定DX、PHRの整備・普及を強力に進める」などの「医療DX」の推進方針が示されました。7月には医療DX推進室が発足し、厚生労働省は8月「医療DX推進体制整備加算」「医療情報取得加算」の見直しを内容とする診療報酬点数の期中改定の内容を明らかにしました。ご存じのように昨年から適用され医療DX推進の動きが医療現場にはっきりと影響を及ぼし始めました。この流れは今後さらに加速することと思われます。そこで今こそ医療DXがもたらす未来について考えていきたいと思います。厚生労働省の推進する医療DXについてビジョンを共有し、適切な運用につなげていく取り組みが重要になると思います。厚生労働省の施策は今後オンライン資格確認の導入・電子カルテ情報共有サービス・標準型電子カルテシステム（ベンダーによる）・電子処方箋、さらには公費負担医療制度のオンラインによる資格確認、予防接種業務のデジタル化、介護情報基盤の構築、医療等情報の二次利用、診療報酬改定DXへと続きます。超高齢化・人口減少社会を目前に医療・介護人材がすでに不足している今、テクノロジーを適切に駆使したシステムを機能させる社会変革が、国民に必要な医療を永続的に提供し続けるための救世主となる可能性を踏まえて活動していきたいと思います。

しかしながら医療には、テクノロジーでは補えない様々な側面があることも考えなければなりません。この医療DXに関する理解を深めることは、その影響と将来の医療を深く考えることにつながります。私たちが真に守

りたい医療への明確なビジョンをもつ機会ともなります。県と協議しながら県内すべての医療人材を対象に医療DXの十分な研修の機会を設けたいと思います。

災害時医療の迅速な体制づくり

さて、地球温暖化による異常気象・激甚災害に加え地震の多発国である我が国にあって、まして2013年の東日本大震災・さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故という大惨事に見舞われた本県の医師会として災害時の医療を最優先に考えなければならないことは自明の理です。これまでにいただいた多方面からのご意見そして今後の調査結果をもとに、災害時にあっても医療の安定供給を可能にするための機能構築、実効性のある取り組みを今年も進めてまいります。昨年災害時医療対策委員会の協議が開始され、救急・災害医療対策委員会において実状に即した活動が模索されております。さらに県との協力体制も構築していかなければなりません。今後いつ起こるかわからない災害を想定して今年はさらにスピード感を重視して活動してまいります。DMAT・JMATを構成する医師チームの活動内容を多くの会員に知っていただき、災害時医療を真剣に考えていただく機会を増やしていきたいと思います。昨年の元日に起こったことを教訓に「今ここで大地震が起ったら」という想定で常日頃から脳内シミュレーションをお願いしたいと考えます。

災害時の正確な情報共有

昨年11月の常任理事会で医師会における災害時の情報受信・発信システムの迅速な整備を行うことが決まりました。災害時にSNSにより不確かな情報が巷に飛び交う中で、医師間での正確な情報共有が県民を守るために大きな力となることを疑いません。未だMAIL登録をされておられない先生方には、今年こ

そご登録をお願いいたします。災害時や感染症拡大期に迅速かつ信頼できる情報を得ることの重要性を鑑みご協力くださいますようお願いいたします。すべての会員がこのシステムに参加することができますよう郡市地区医師会のご協力を賜りたく宜しくをお願いいたします。

医療現場の声を国政に

医師会は会員の意思を反映し、会員を様々な面から支えていくものでなければなりません。医療行政に関しては適切なアプローチが必要になります。皆様が抱く医療行政への考えを国政の場で活躍する県医師会顧問の星北斗参議院議員に直に伝え国政に反映していただくための機会を本年各方部で開催いたします。医師が医療現場でその実力を十分に発揮して力強く活動するためには、時に声を大にして必要なことを求めていくことが必要になります。本県の医療の現状を考え、改善に向けて行動していくことが結果的に県民の幸福につながります。さらに本年7月に行われます第27回参議院議員選挙にむけ、日本医師連盟及び県医師連盟は日本医師会の副会長である釜沼 敏（かまやち さとし）先生の推薦を決定しました。

未だ復興半ばの本県の医師の声を国政に届けていただくためにも皆様の力強いご支援をお願いいたします。

課題への取組みを強化

会員の皆様には、それぞれの立場・場所でも本県の医療を守っていただいております。医療を取り巻く現実には厳しく、昨年の診療報酬改定では多くの医療機関が収入減少という影響を受けております。さらに昨年4月に開始されました医療現場での働き方改革が将来の医療にどのような影響を及ぼすのか誰も明言できません。今年から「今 現場で何が起き

ているのか～現場の声を聴く」の県医師会報連載が始まりますが、今年発信される現場からの声に真摯に耳を傾けてまいります。

高齢化社会での地域包括ケアシステム推進、予防医療、生活習慣病対策、学校保健、東日本大震災と原子力災害からの復興、そして県民の健康指標、周産期から終末期・看取りまで、県民の人生のステージに寄り添いながら医師会は様々な委員会・協議会を設置して本県の医療課題を改善すべく活動いたしておりますが、現状に満足することなく、県をはじめとする関係団体と協力し役員、委員をはじめとする各分野の有為な人材そして郡市地区医師会、会員の皆様のご協力のもと、本年も様々な課題に全力で取り組んでまいります。県民の健康指標改善についても、県民一人一人に健康への意識を高めていただくために、医師の立場から県民にむけた啓発活動を行ってまいります。年間を通して各分野・各所・様々な機会をとらえて県民への啓発を行い、本会の使命として県民の健康で幸福な長寿のために将来にわたり県民の幸福につながる活動をしてまいります。

新たな活動に向けて

さて以前提案しました東北医師会連合会各県救急・災害担当理事協議会設立が11月末の東北医師会連合会会長会議で正式に決まり、本年から開催される運びとなりました。東北6県が連携を強化し実力を養う新たな年となります。

2005年から毎年開催されております日本医師会男女共同フォーラムは、今年第19回を迎えます。本年は本県が開催県となり「ダイバーシティを踏まえたキャリア支援」をテーマに5月17日に郡山市で開催されます。より多くの方が男女共同参画への関心を深めることが真の成熟した社会を生み出すことにつながります。本フォーラムの成功のため会員の

皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします
します。

さらなる飛躍の年に

さて、昨年6月の就任時から約半年会長職
の責務を負ってみて、福島県医師会が続けて
きた活動の安定した力強さを確認することが
できました。そしてそれを可能にするために
大きく貢献してきた事務局の力を再確認いた
しました。私たち福島県の医師を支えるこの

事務局の能力をこれからも県民のために最大
限に発揮してもらいたいという思いを強くし
ております。

皆様には医師会にご意見・ご要望をお寄せ
くださいますようお願い申し上げます。

2025年という年を福島県医師会のさらなる
飛躍の年にしていくために皆様のご支援・ご
協力をお願いいたします。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

